

VI 今後の展開

①パターン A『きらりんまちなかラウンジ』（建物内外を利用するタイプ）

■維持管理上の検討課題に関して実証実験で確認された点

1) 設置と収納に関する作業負担等

- ・実証実験期間中、「きらりん」の現地スタッフ及び銀天街商店街振興組合のスタッフ等により、1名又は2名で設置と収納を実施した。
- ・所要時間は1名の場合で20分、2名の場合で10分程度。昨年度の大街道のケースでは、2人体制で設置に40分程度、収納に20分程度を要していたことから、作業負担が相対的に小さい。滞留空間の範囲が小さいこと、什器にキャスターを設置したことなどによると考えられる。
- ・作業に従事したスタッフからは、「什器が低く、かがむ姿勢になるのがやや辛い」、「慣れるに従って、作業時間が短縮できた」といった感想が聞かれた。
- ・総じて、継続が困難となる問題は確認されなかった。



2) 植栽の管理

- ・期間中、一部の植栽（シマトネリコ、ローズマリー等）で落葉、枯れなどの状況が確認された。複数の園芸店に相談したところ、「シマトネリコは灌水を多めにすることが必要」、「本来、光が多い方がよい」といった意見があった。
- ・実験で使用した量の植栽を長期間継続的に保管使用することは、施設運営上の支障も生じるといった運営者側の意見、アレルギー体質の人などもあるので過度な量の植栽は配慮してもらいたい、といった利用者側の意見が聞かれた。

3) 本の管理

- ・当初、夜間も本を設置していたが、近隣店舗より放火を心配する意見があり、什器とともに毎日収納を行うよう変更した。
- ・当初、本を寄贈しても、もらい受けてもよいとのルールで運用したところ、もらい受ける人が多く、バランスがとれなかったため、一冊寄贈すれば一冊もらい受けてよいとする「交換型」のルールを採用した。以降は比較的安定した。



4) 意見交換ボード

- ・貼り込みが多かったため、概ね一週間に一度、盤面をクリアする必要があった。
- ・木製の棚にいたずら書き等も見られたが、消去したあとは同様のいたずらは見られなかった。

■今後の維持管理方策について

1) 今後の持続的な維持管理について

- ・滞留空間の設置は、利用者から高い満足を得られている。滞留時間を増加させる効果も確認されており、今後、維持管理を継続させる必要性は高いと考えられる。
- ・「きらりん」の建物内外を一体的に利用することにより、まとまった規模の滞留空間の確保が可能となった。

また、人目につきやすい道路空間から建物奥の目立ちにくい場所まで、多様な空間を提供することが可能となった。

- ・「きらりん」に常駐するスタッフが管理に従事することにより、新たな人手の確保を行わずに、安心して時間を過ごせるような管理の行き届いた滞留空間を持続することが可能となった。

2) 実験結果を踏まえた滞留空間デザインの改善点や留意点

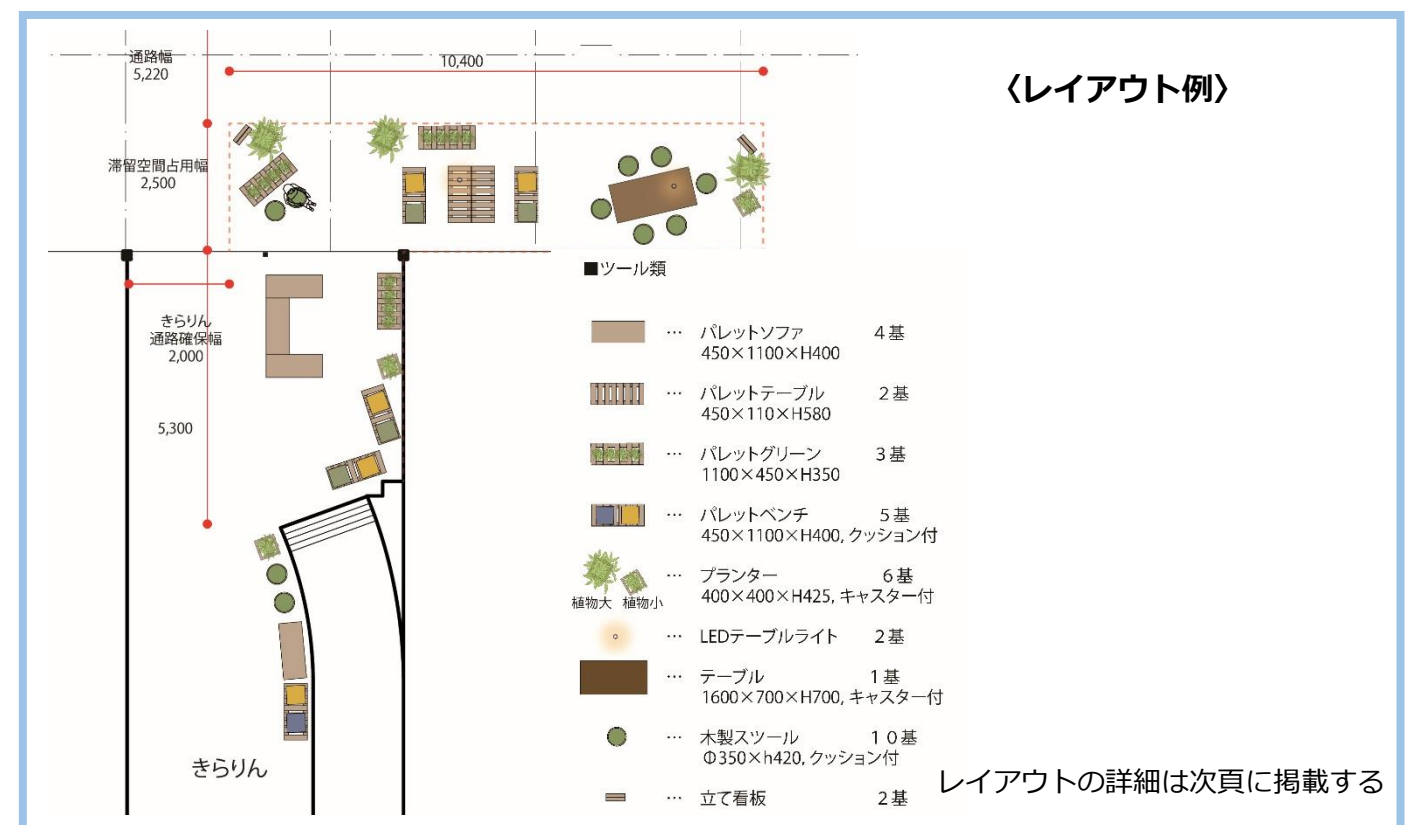
- ・道路内の滞留空間については、好意的に評価される一方で、「人通りが多く視線が気になる」などの意見も聞かれた。他方、「きらりん」内部のイス・テーブルでは比較的長時間の利用もみられており、異なる性質をもつ空間をバランスよく配置することで、多様なニーズに応えることが望まれる。
- ・ソファを高く評価する声がある一方で、通常の高さのテーブルの方が軽い作業や飲食利用等に適する、といった声があり、ソファ型の什器とテーブル・イスを組み合わせる必要がある。
- ・管理者や利用者の意見を踏まえて、植栽の量について調整が必要である。

3) 今後の滞留空間デザインの提案

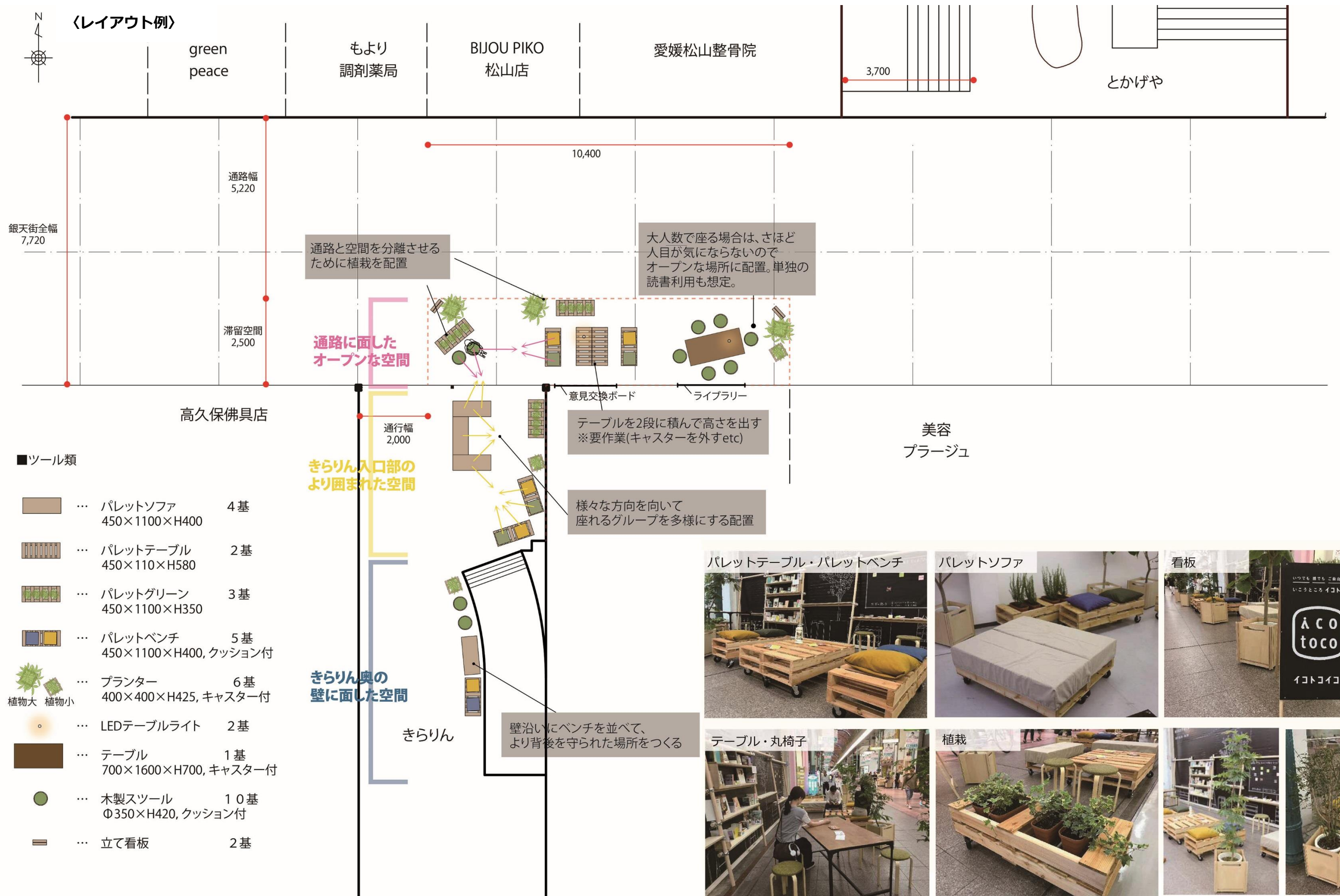
- ・上記の点を踏まえて、今後、継続的に設置する滞留空間として、きらりんを例示として下記のようなレイアウトを提案する。

4) 空き店舗のシャッター利用

- ・空き店舗のシャッターを利用したイコトコ LIBRARY（交換型の本のコーナー）と意見交換ボードは、滞留行動のきっかけをつくる仕掛け、利用者ともち（商店街）とが接点をもつ仕掛けとしての有効性が確認されており、滞留空間と一体に設置、管理することにより、滞留空間の利用促進や魅力向上につながるものとして期待される。



VI 今後の展開



VI 今後の展開

②パターンB『湊町とまりぎプロトタイプ』（店先/空き店舗前を利用するタイプ）

■維持管理上の検討課題に関して実証実験で確認された点

1) 設置と収納に関する作業負担等

・今回は、「とかげや」のスタッフの協力により実施したが、什器が少量であったため、作業負担については、特に大きな問題はなかった。

2) 植栽の管理

・「まちなかラウンジ」と同様に、一部の植物が枯れる、といった状況が確認された。
・プランターの鉢とカバーの間にゴミを放置する例なども見られた。

3) 周辺店舗へのヒアリング調査から把握された意向

・滞留空間を増やしていくことについては、ヒアリングを行って店舗の大部分から賛意が得られている。
・自らの店舗の前での滞留空間の設置・管理に関しては、ヒアリングを行った16店舗のうち、6店舗が前向きな意向を示した。その中には、2つのタイプが含まれる。

a) 自店舗前での設置・管理を希望する、又は働きかけがあれば対応する	・飲食店または食料品を扱う店が多い。
b) 自店舗の前は避けたいが、近隣の空き店舗前等での実施には、管理に協力する	・物販店では、商品陳列スペースとして利用している場合が多いため、これを削って滞留空間を設置することには消極的。しかし、まちとして取り組む意義は感じており、協力も有り得る。

■今後の維持管理方策について

1) 今後の持続的な維持管理について

・限られた対象へのヒアリング調査においても、設置・管理の担い手となりうる主体が複数見いだせたことを踏まえると、銀天街全体でも、前向きな店舗が一定数は存在しているものと推定される。
・継続的な滞留空間の設置に向けて、今後、以下の点について検討を進めていくことが必要である。

①組織としての意思決定

・「とまりぎタイプ」の滞留空間を、銀天街に増やすことを目指すかどうか、各々の商店街振興組合において、意識共有と合意形成が必要である。
・その上で、実施する場合の主体について、いずれかの組合による単独実施、両組合による共同実施、まちづくり松山等、決定することが必要となる。

②参加に関する店舗の意向把握

・滞留空間の維持管理は、個々の店舗を単位として行うことが前提となることから、①の結果、実施についての検討を進める組織が店舗に対して、参加意向調査を行うことが必要となる。
・参加する場合の前提などを示し、条件によって参加するかどうかなどの意向もあわせて把握する。

③滞留空間のデザイン検討

・想定される参加店舗数、店舗の内容、各店舗の前面道路の現状等を踏まえ、想定される滞留行動の内容等を考慮して、滞留空間のデザインを行う。
・保管場所など維持管理面での課題も考慮して、適切な什器等の選定を行う。

④費用の検討、予算確保

・③のデザインの検討とあわせて、什器等の設備にかかる費用を検討し、費用負担のあり方を整理する。
・組織として必要な資金等の調達方法を検討する、もしくは、予算確保を行う。

⑤管理・運営のルールづくりと参加店舗の確定

・管理者のはたすべき責務等、管理に関するルールを実施主体として決定する。
・これにもとづき、店舗への最終意向確認を行い、参加店舗を確定する。

⑥関係機関協議、手続き

・「とまりぎタイプ」の滞留空間設置について、設置個所と設置概要（配置図や占用物件概要）を整理し、道路管理者、交通管理者協議を行い、道路占用許可、道路使用許可を受ける。

③今後の検討フロー

